

市民型公共事業 霞ヶ浦アサザプロジェクト
中心の無い動的ネットワークで、
社会の壁を溶かし膜に変える。



NPO法人アサザ基金

NPO法人アサザ基金 代表理事 飯島 博

霞ヶ浦・北浦の広大な流域

流域面積 2156.7平方km
(茨城県の面積の約35%)

筑波山

石岡

鉾田

土浦

霞ヶ浦

北浦

鹿嶋

稲敷

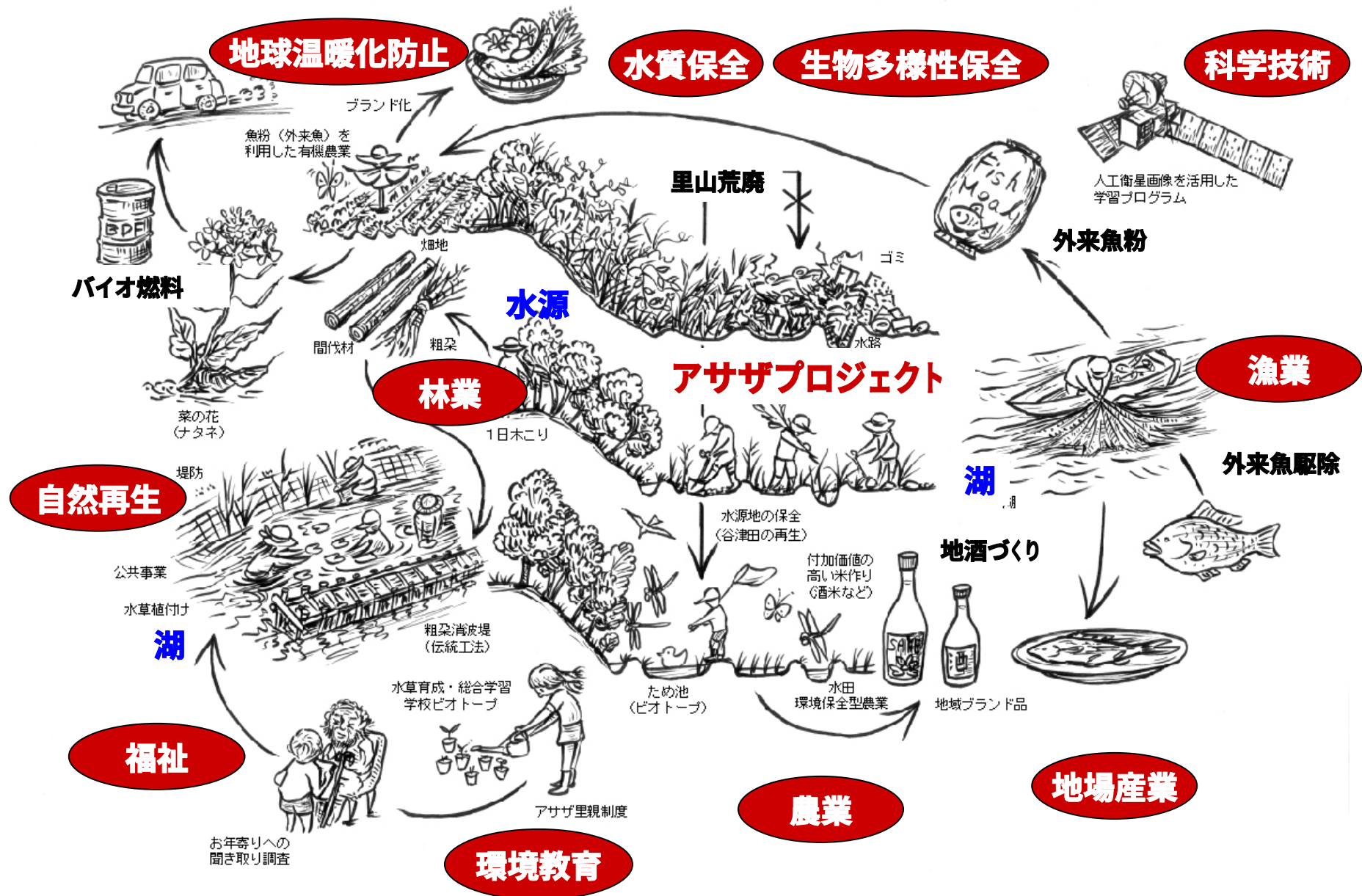
潮来

龍ヶ崎

逆水門



自己完結しない事業！ 付加価値の連鎖



自然保護ではなく価値創造による水源地の再生

企業や地場産業、住民
との協働で各地の水源地
地を再生中！！



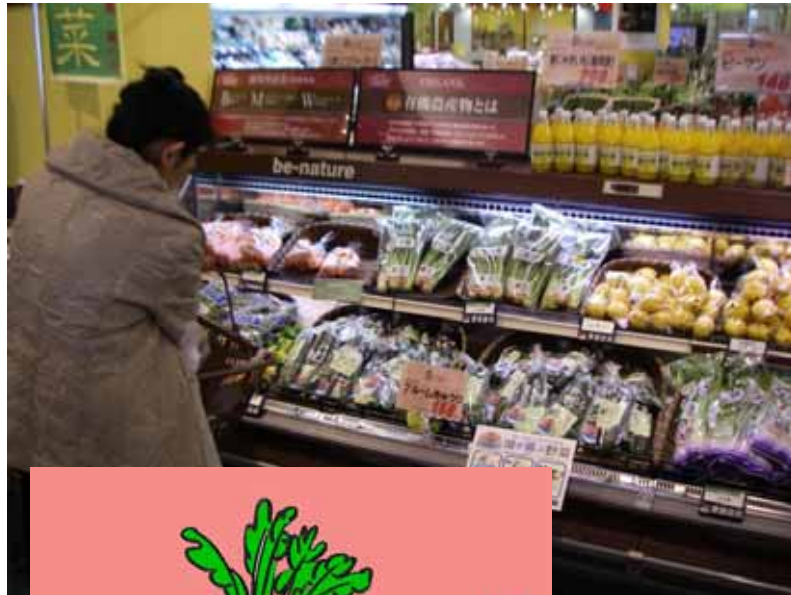
長年使われずに荒れている谷津田

25年以上放棄されていた
谷津田がよみがえった！

NPO法人アサザ基金



新しい物と金の流れで生物多様性を保全する ビジネスモデルの展開



◆登録商標



環境保全と地域活性化に向けた空間の読み直し



NPO法人アサザ基金

アサザプロジェクト活動展開

- 湖岸植生帯復元事業 (2000-2002)
- ★ アサザプロジェクトによるアサザ植付け実施箇所
- ★ 菖の花バイオディーゼルプロジェクト用
菖の花栽培地
- 魚粉事業
- アサザプロジェクト設置学校ビオトープ
- アサザ里親学校
- △ 「一日きこり」・(有) 粗朶組合他

多様な事業で
流域全体を覆
う。
動的ネットワーク
場の創出



NPO法人ア

霞ヶ浦・水資源開発による環境破壊 (1970年代)



死の湖と言われ皆があきらめていた。
水質が悪化
アオコがシンボルに！

湖岸250 kmを4周
とにかく歩いて調べる
ことから始めた。



アサザとの出会い・湖の日常に可能性を発見



直立護岸・・・高波が立つ



アサザ群落・波が抑えられる

すぐ足元の湖にお宝があった。

歩くことで発見できた。

自然の働きを活かした再生

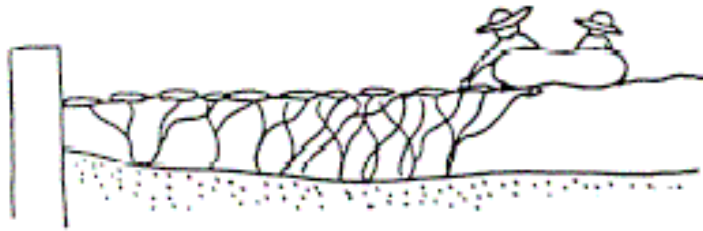
NPO法人アサザ基金



アサザの里親制度・物語が始まった。

霞ヶ浦という空間をファンタジー化する！

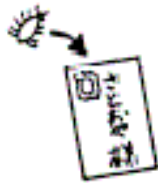
(1) 種を集める



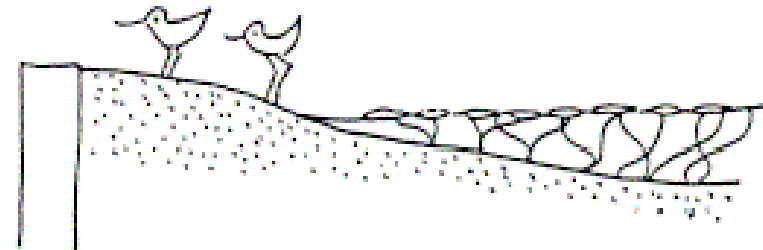
(4) 市民による植付け



(2) 里親への配布



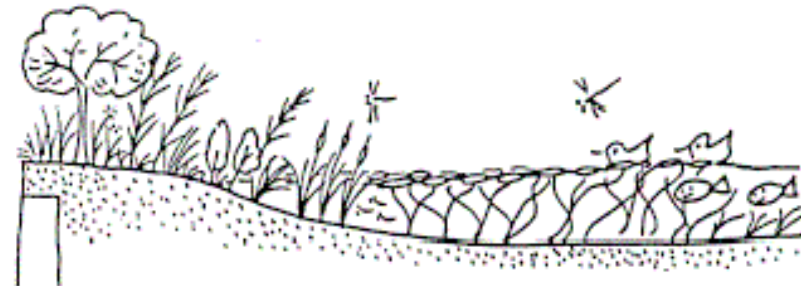
(5) 砂浜ができる



(3) 栽培



(6) アシ原ができる



だれでもできる！ 日常

NPO法人アサザ基金

課題！ネットワークの消失、そして再生

自然環境の連続性・ネットワーク

分断化・消失⇒生物多様性の低下・生物の絶滅

社会の連続性・ネットワーク（コミュニティ・世代）

縦割り・専門分化⇒分断化・消失

……………空間や時間の連続性の消失……………

連続性・ネットワークの再生をめざすアサザプロジェクト

自然環境のネットワークと

重なり合う

社会的・人的ネットワークの構築



部分最適化する環境対策と技術の限界



規制や制度に適応した環境対策や技術は部分最適化する。

受け身の対策や技術→総合化が起きない！

規制や制度→固定した枠組み・ゾーニング

→新たな社会システムの構築につながらない。

新たな社会システムの構築には、価値創造のための枠組みを主体的につくる必要がある。

欧米主導の枠組み → 日本からの様式

**総合化は「する」ものでなく、「起きる」もの。
環境という文脈が社会に総合化を促す。**

総合化……………未開拓の広大な領域がある。

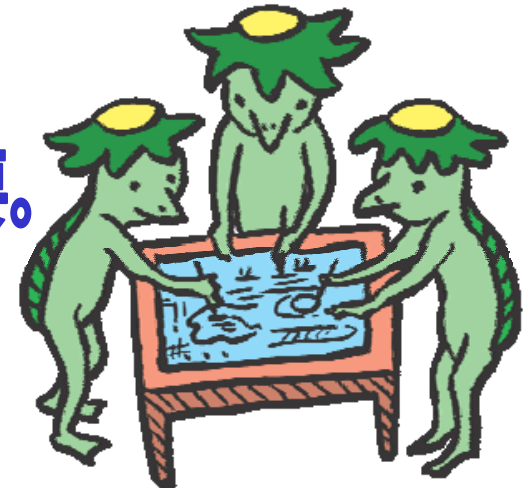
無限の可能性が眠っている。

新しい発想が必要。

新しい価値が必要。

新しい生き方が必要。

場の創出が必要。



**環境という価値を社会に浸透させるためには、
価値創造的な取組が必要！**

**価値創造的な取組→想定外の出会い、新しい文脈
もの作りや技術開発、まちづくりに発想の転換を促す。**

多様な人々と共に、

新たな価値を創造するための「場」を生み出す。

新たな技術やシステムが展開する場を生み出す。

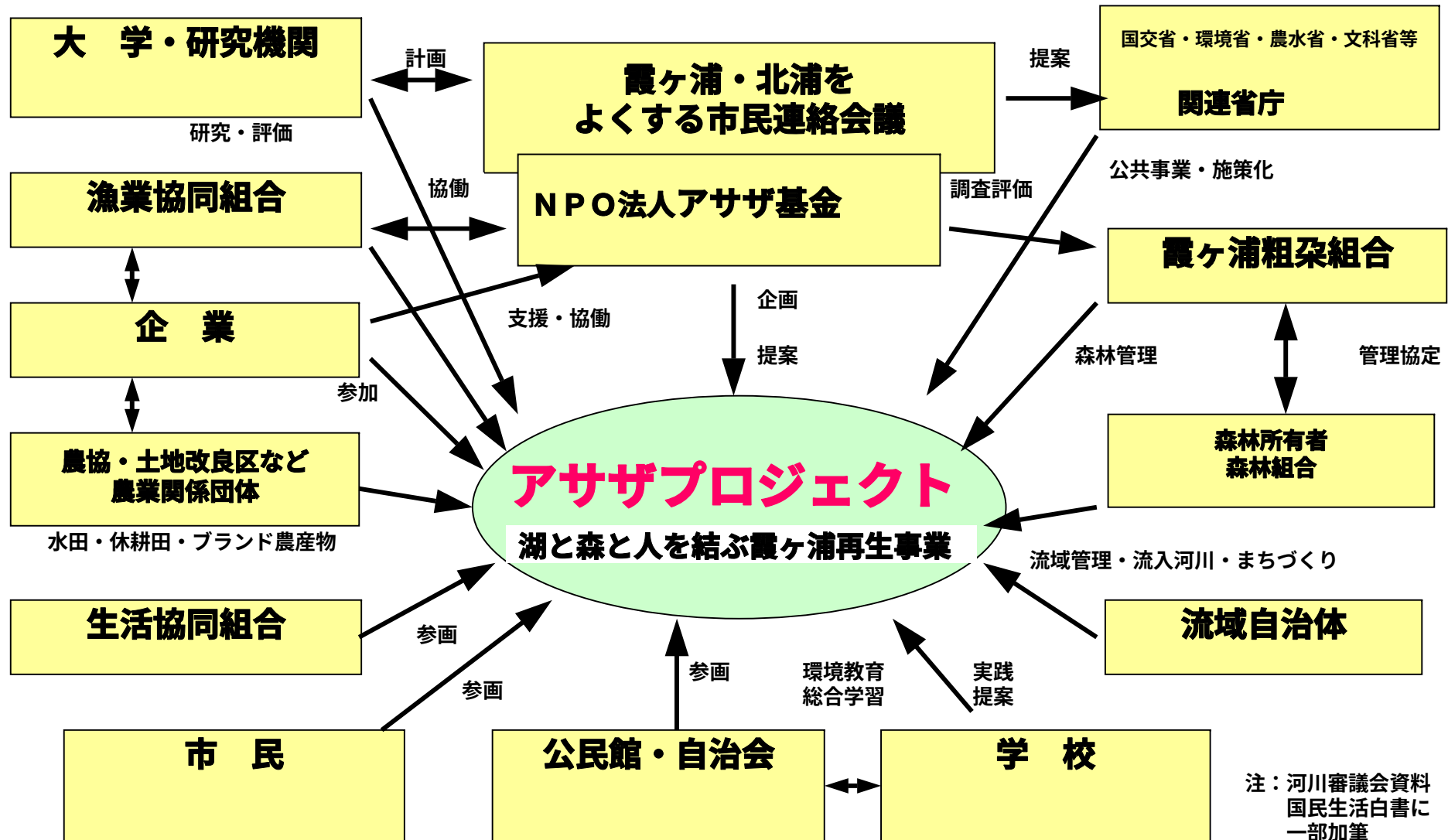
地域やコミュニティから機能を引き出す。

社会に展開し協働する技術（場の創出と一体化した技術）

固定した価値ではなくネットワーク展開する価値を創造する。

→このような場づくりの先導役を環境学習がはたす。

中心に組織の無いネットワーク～市民型公共事業



ネットワーク型社会の構築

ピラミッド型社会 → ネットワーク型社会

市民参加

行政参加

中心に組織のない広域ネットワーク

個々の人格が場として機能するネットワーク

**中心は「場」・・・協働（コラボレーション）の場
企業や行政をネットワークの中で機能させる。**

機能するネットワークとは

運動のネットワークではなく・・・付加価値の連鎖

価値のネットワーク

意味のネットワーク

流れの中に意味や価値を投げ込む。

動的なネットワーク 動きが止まる（組織化する）と消滅する。
中心の無いネットワークは動き、機能し、展開する。

生成するネットワーク

つながることで新しい意味や価値が生まれ続ける。

組織化されたネットワークは機能しない！

良き出会いの連鎖

NPO法人アサザ基金

アサザ基金

コンテンツ・ブランド → コンテキスト・ブランド

ネットワーク上に展開する付加価値の連鎖

物を開き、事を始める。 中国の古くからの故事

多様な人々が共有する価値創造の場から生まれる。

人々と共に創造した価値、だから強い。

物語にすべてを溶け込ませる → 場として開く。

縦割りを壊す？！ 縦割りを溶かす？！

壊す ⇒ 古いピラミッドから新しいピラミッドへ。
別のピラミッドが出来てしまう。 力の論理

溶かす ⇒ ピラミッド型からネットワーク型へ
壁 (かべ) → 膜 (まく) 価値創造

100年の流れ

野生生物が
社会システムを評価

自然環境の連続性
と
社会システムの連続性

破滅しないことは目標
にはならない。

社会の潜在性に目を向
け未来図を描く。

NPO法人アサザ基金

100年後、霞ヶ浦に大自然を復活させよう！
アサザプロジェクト計画図

カイツブリ

オオヨシキリ

10年後

アシ原が広がる

オオハクチョウ

20年後

カッコウ

岸にヤナギ林がではじめる

30年後

植生帯が十分に広がる

オオヒシクイ

40年後

コウノトリ

50年後

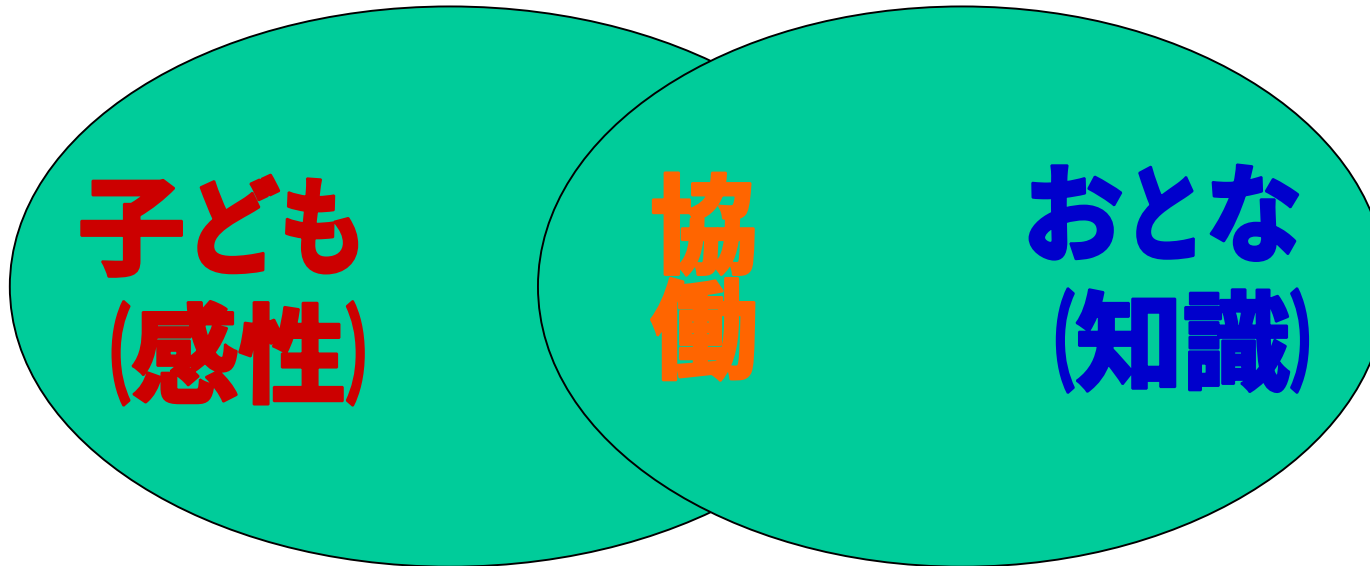
ツル

100年後

トキ

自然と人間の共生の文化を
22世紀に向けて展望する

子どもと大人の互いの持ち味を活かす



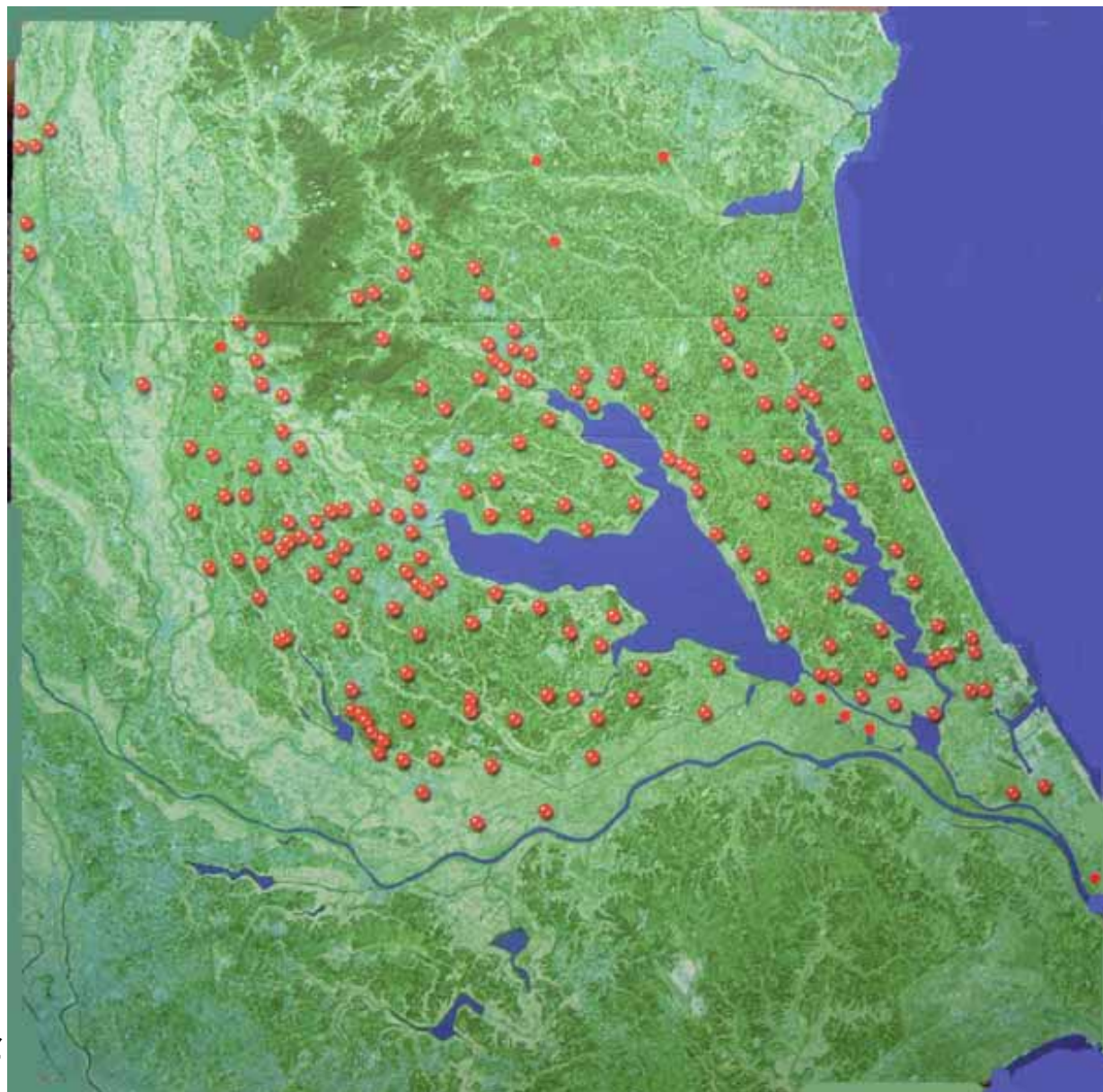
子どもの感性～全体認識～総合化への意志
大人の知識と理性～分析力と構築力
ふたつの協働によって総合化への道をひらく。
人生のファンタジー化

アサザプロジェクト・・・170を超える小学校が参加

子ども達の感性で流域を被う空間のつながりを取り戻す！

流域ぐるみで
湖を再生する。

幼稚園・中学校・高校を加えると200を超える！



縦割り化した社会を、 子ども達の感性で結び直す

子どもの日常空間に着目。空間を読み直す。

小学校区……………子どもの感性が息づく空間・日常空間

小学校区……………子ども（6歳から）が歩いて通うことを前提に
空間配置されている。

小学校区……………地域コミュニティの範囲とほぼ一致。

寺子屋（江戸時代）⇒尋常小学校（明治時代）⇒小学校（現在）

地域コミュニティ

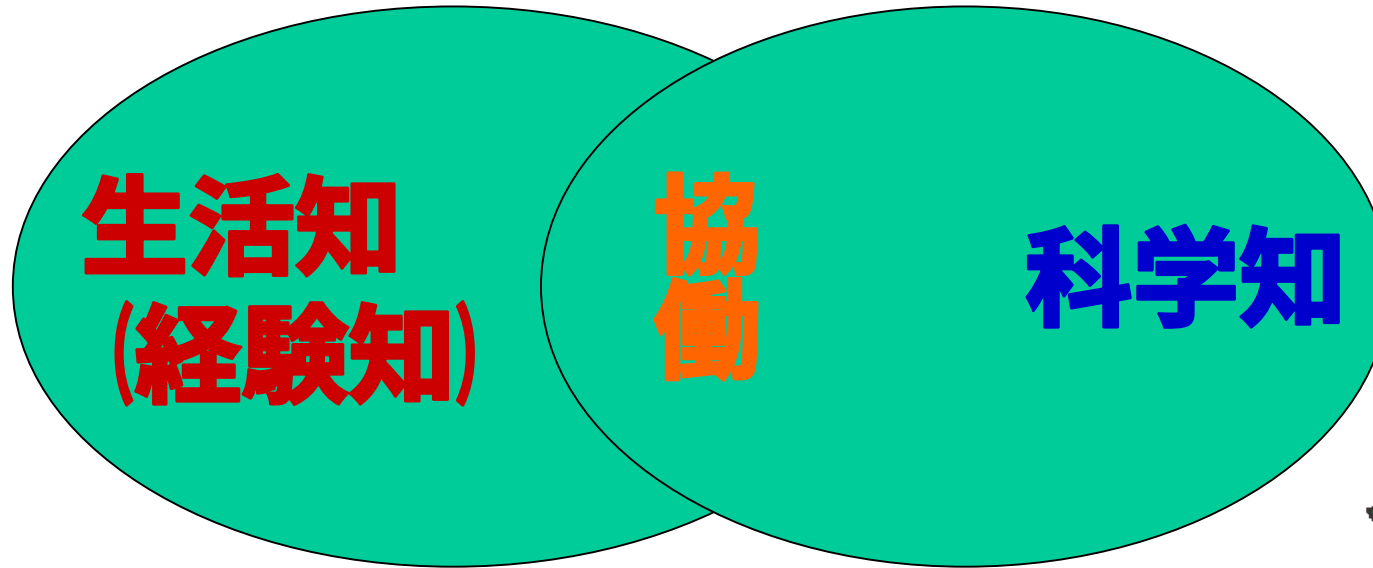
地域コミュニティ

地域コミュニティ

地域ぐるみで子ども達を育てる文化の復興

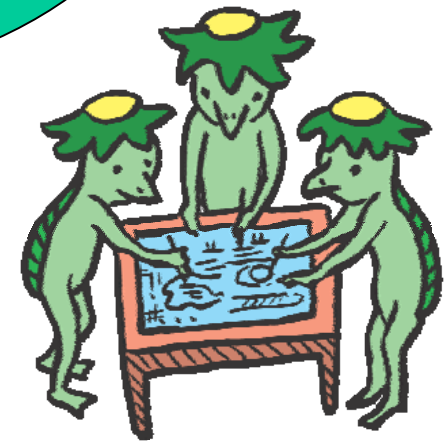
新しい知の構築

人々の日常と結び付く→「空間的・時間的連続性を持つ技術」



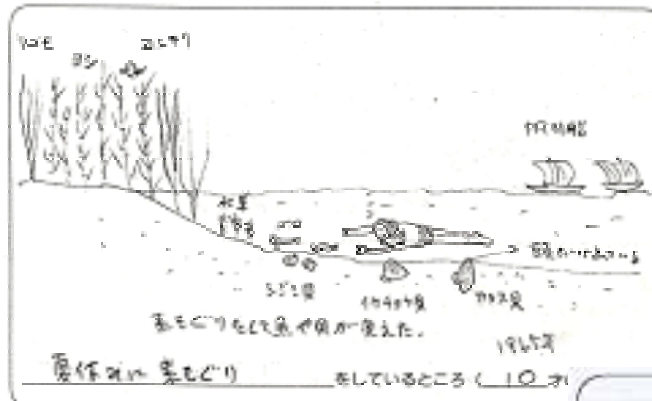
社会システムの構築と一体化した
新たな技術展開・システム開発への
パラダイムをひらく。

総合化する主体は統合する意志を持つ生活者



記憶を掘り起こす！ ● **地域の環境を身体図式の拡張として捉え直す。**

⑥ 昔の霞ヶ浦であそんだりしていたときのようなずを絵でかいてください。
(ここはおほなしをしてくれる人といっしょにかきます)



※ これから霞ヶ浦のみずべをどうしていくのがよいと思ひますが、

※ もっとくわしいお話を学校などで聞かせてもらってもよいですか？

1. はい (れんらくさき: _____) ② い

これでおしまいです。お話ししてくれた人にお礼を言いましょう。さいごに、
ったことやふしぎに思ったこと、感じたことなどを下のメモに書いておしまし

● 又 也 ●

昔は、ていねいな人柄でよく振舞った。今では
おやぐことまでした。

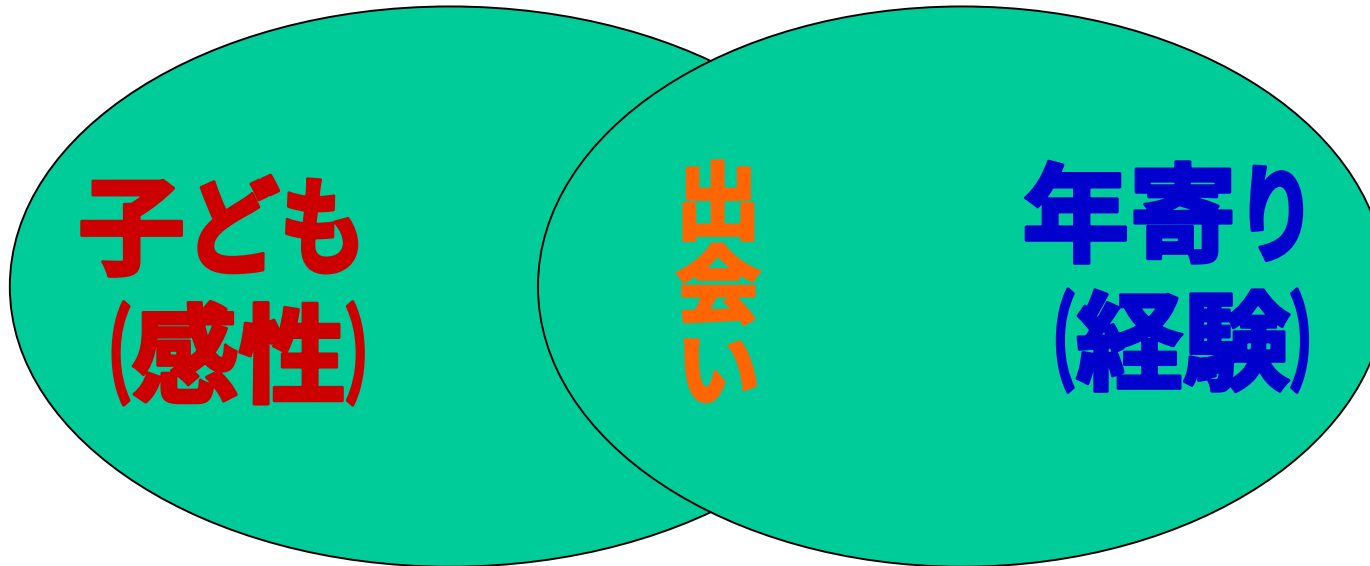
あつかれさまでした！

なお、このちょうきについてのしつもんは、NPO法人アサザ基金までどうぞ。
〒300-1233 牛久市栄町6-387 でんわ・FAX 0298-71-7161
メール asazafund@nifty.ne.jp ホームページ <http://www.kasunigaura.ne.jp>

● 冒のみずべであそんだりばたりしていたときのようすを絵でかいてください。
(ここはおはなしをしてくれる人といっしょにかいてください)



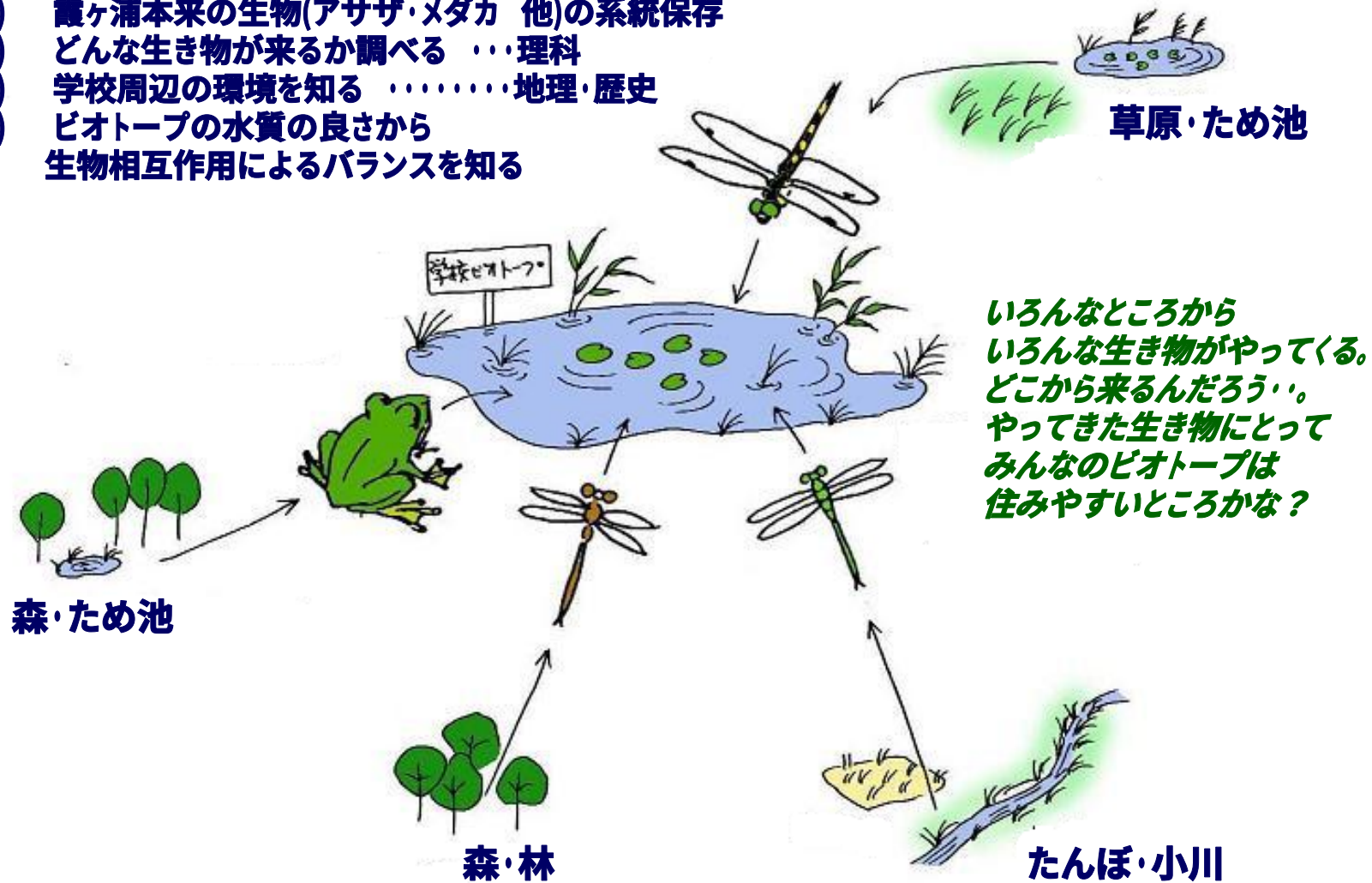
公共事業が世代間交流の場に！



子どもの感性～全体認識～総合化への意志
経験と出会う喜び (生得)
年寄りの経験～全体認識～総合化への意志
経験を伝える喜び (体得)

学校に集まる生物を生徒たちが常時観察。

- (1) 霞ヶ浦本来の生物(アサザ・メダカ 他)の系統保存
- (2) どんな生き物が来るか調べる ……理科
- (3) 学校周辺の環境を知る ……地理・歴史
- (4) ビオトープの水質の良さから
生物相互作用によるバランスを知る



NPO法人アサザ基金

供給ポテンシャル→地域の生物多様性を反映

里山……管理か、働きかけか？

管理 → (里山) → 標本展示 保護区・公園
価値保存
静的

働きかけ → (里山) → 社会システムの構築
価値創造
動的 里山

管理 から 働きかけ へ

管理 ⇒ 縦割り、一方的、近代の枠組
公園・保護区 自然と人間を分ける。

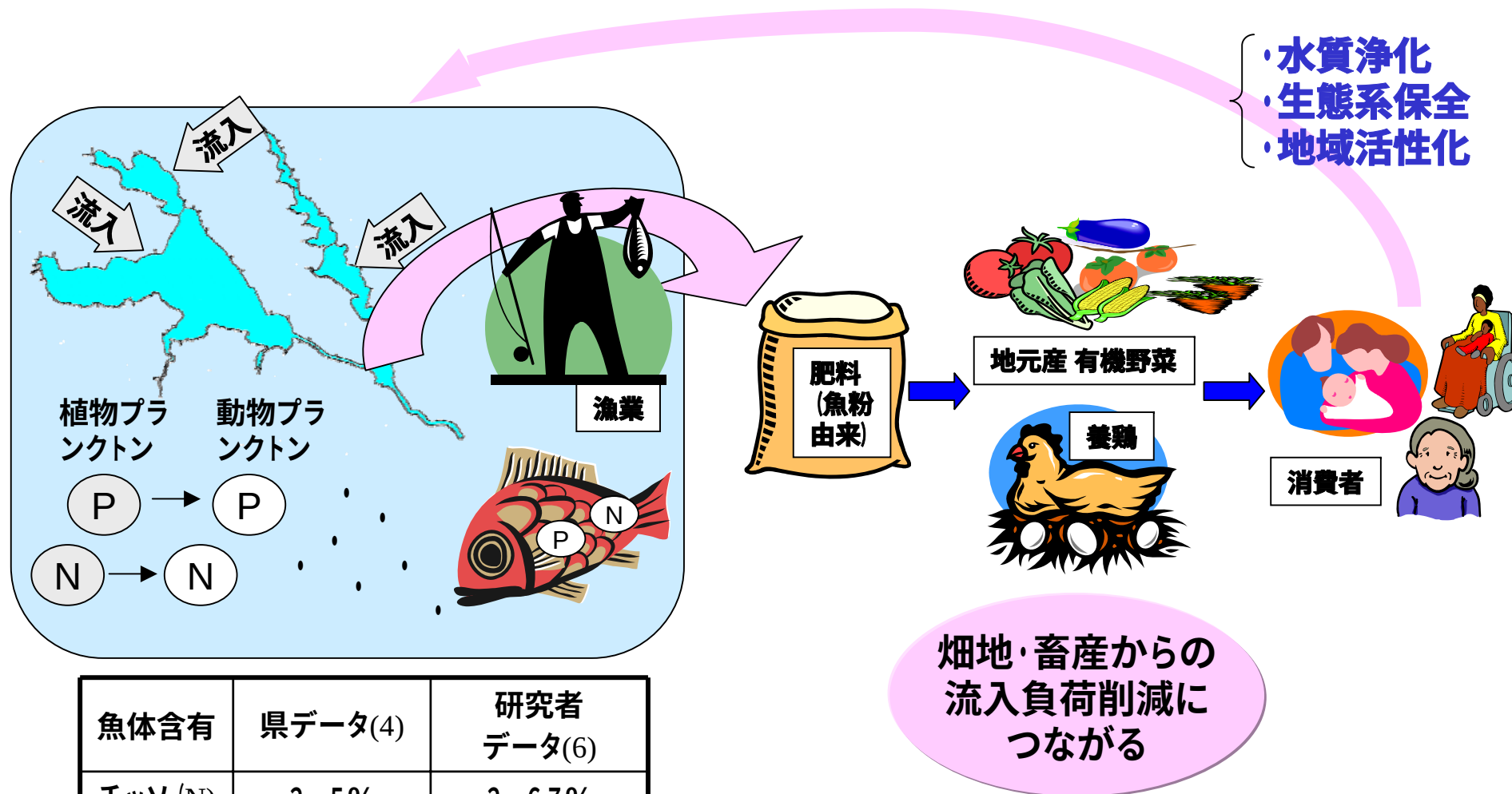
欧米型自然保護

働きかける ⇒ ネットワーク、双方向的、枠組を創る
里山という場 自然と人間とを分けない。

アジア的・日本的自然観

循環の輪を創りながら、効果的・持続的に湖からチッソ・リンを回収

環境という文脈化で新たな結びつきが生まれる！



魚体含有	県データ(4)	研究者データ(6)
チッソ (N)	2.5%	2.67%
リン (P)	0.5%	0.7%

【出典】 (4)県HP、(6)熊丸 (1998)

NPOを社会の中にどう機能させるのか

分かれ道

×行政の機能を補完する。

少ない費用で公的な機能をNPOが維持する＝下請け化

→ 縦割りし硬直化した行政システムを温存

◎行政をネットワークの中で機能させる。

NPOが行政など専門分化した組織間の連携をつくり

公的な機能を引き出す＝ビジネスモデルの提案。

→ 社会システムの再構築

→ 循環型社会

＝ホルモン
触媒

NPOを社会のホルモンとして機能させる。

組織が巨大化し複雑化（縦割り化）して末端組織にまで十分に血液が行き届かなくなった。

どのように公益機能を維持するのか。

増税⇒血液を増やす。末端組織に血を送る。

削減⇒血液の届かなくなった組織を廃止する。

または、NPOが安い金額で請け負う。

NPOが社会のホルモンの役割を果たす。

⇒ 既存の離れた組織間を結び、新たな機能を引き出すことによって公益を生み出す。

◆アサザプロジェクトによる経済効果の試算（漁業の再生）

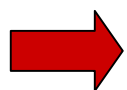
逆水門の柔軟運用の最大効果（予測）

遡上障害解消と汽水域創出により、ウナギ、スズキ、ハゼ、イサザアミ、ヤマトシジミが全量回復

植生帯復元事業の最大効果（予測）

産卵適地や育成場の回復により、ワカサギ、シラウオ、エビが全量回復

	生産額／年	経費／年	利潤／	利潤増（現状比）
現状	2,551,972,191	971,411,888	1,580,560,303	—
短期	17,181,561,647	1,453,599,610	15,727,962,038	14,147,401,734
長期	36,833,629,730	4,486,346,379	32,347,283,351	30,766,723,047

 **長期で308億円**の漁業者利潤増を見込むことが出来る。

漁獲高回復による有機物回収効果

2. 漁獲高の増加による有機物の回収（価値創造型事業）

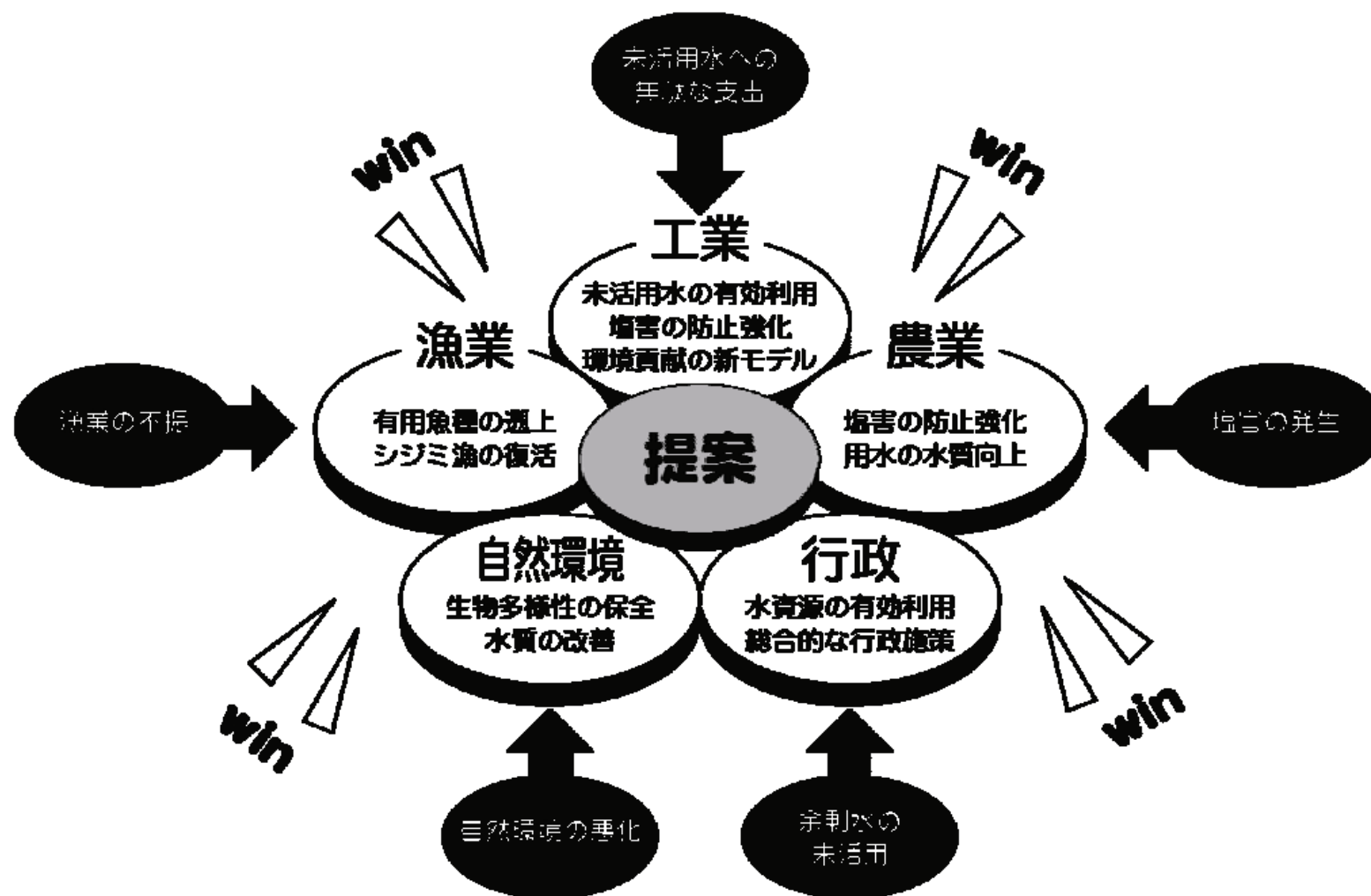
茨城県では、平成14年に策定した「霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画」の中で、漁業に係る汚濁負荷対策の一環として「漁獲による汚濁負荷の削減」を挙げている。

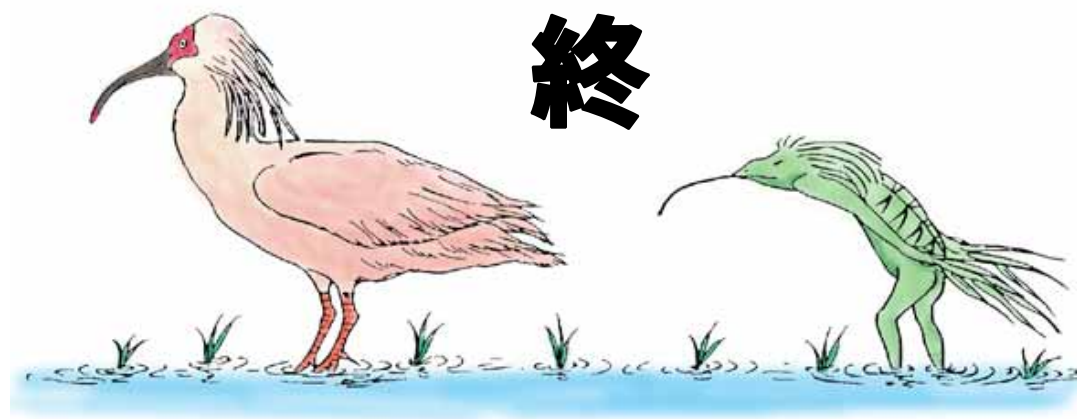
	漁獲量(トン)／年		
	現状	短期	長期
ウナギ	6.5	88.3	460.7
ハゼ	292.9	5,012.70	10,038.70
セイゴ／スズキ	0.8	1.4	5.4
シラウオ	179.8	522.7	565.8
ワカサギ	124.8	1,156.70	1,327.40
合計	604.80	6,781.80	12,398.00

注) 魚体に含まれる重量割合を窒素 2.5%、リン 0.5%として算出した場合

窒素310トン、リン62トンの回収が可能
ワカサギ・シラウオを含む

◆環境の文脈で価値を創造しよう …みんなが得する、
元気になる提案は可能です！！





ありがとうございました。